

国立大が英語資格・検定試験の活用方針表明

河合塾

2019/12/02

2020年度からの運用が予定されていた大学入試英語成績提供システムの見送りに伴い、国立大から2021年度入試での英語資格・検定試験の活用方針について発表された。以下、概要をまとめた。

■国立66大学が英語資格・検定試験を活用せず～2021年度一般選抜

大学入試英語成績提供システムの見送りに伴い、国立大学協会は各国立大に対し、11月29日までに英語資格・検定試験の活用方針を公表するよう求めていた。これを受け、29日までに全国立大から活用方針が公表された。

河合塾の調査によると、82大学中66大学（80%）が一般選抜では全学部において英語資格・検定試験を活用しないとした。10月までに大学入試英語成績提供システムを全学で「活用しない」としていた国立大は4大学（5%）のみであったことと比較すれば、システム導入見送りにより一気に方針転換された形となった。システムなしに英語資格・検定試験を活用しようとするれば、大学が独自に複数の資格・検定試験のスコア等の確認が必要となる。その体制を構築するのは難しいという判断だろう。活用を取りやめた大学の中には、筑波大のように「入試で課されているかどうかにかかわらず、4技能をバランス良く学び、継続的な学習習慣を身につけておいてほしい」といった高校生向けのメッセージを、今回の発表の中で発信しているところもみられた。こうしたメッセージからは、大学としても決して英語4技能の評価を不要と考えているのではなく、制度的に見送らざるを得なかったという姿勢がうかがえる。

一方で活用を表明したのは表の16大学である。顔ぶれをみると、いずれも2020年度入試においても英語資格・検定試験を活用している大学である。

千葉大、東京海洋大などでは2020年度より活用する学部を拡大する。

なお、ここまでの話は一般選抜での活用状況である。一般選抜では活用しないものの、学校推薦型選抜、総合型選抜では活用している大学もみられる。学校推薦型選抜、総合型選抜でも2020年度入試で活用していた大学の多くは、そのまま2021年度でも英語資格・検定試験を利用するところが多い。

2021年度一般選抜で英語資格・検定試験を利用する大学

大学	学部-学科	日程
秋田	国際資源	前期
茨城	工、工フレックス	前・後期
千葉	全学部（医、文-一部コースを除く）	前期
東京海洋	全学部	前・後期
東京芸術	音楽（作曲、声楽、器楽、指揮、邦楽）	前期
金沢	文系一括、人間社会-人文・経済・学校教育・地域創造・国際、理系一括、医薬保健-保健	前期
福井	国際地域	前・後期
大阪教育	教育-小中-英語教育・中等-英語教育・グローバル-英語コミュニケーション	前期
広島	全学部	前・後期
山口	国際総合科学	前・後期
九州	共創	前期
九州工業	全学部	前・後期
佐賀	全学部	前・後期
長崎	多文化社会	前・後期
宮崎	工	前期
鹿児島	全学部	前・後期

※河合塾調べ（2019年12月2日現在）

■公私立大は12月13日を目途に方針公表へ

文部科学省では、全大学に12月13日を目途に英語資格・検定試験の活用有無、活用方法等について公表するように要請している。公立大、私立大では、現時点までに公表済みの大学はまだ限られているが、今月中旬には大勢が判明する予定である。